

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-169	14-323	慶應義塾大学
題名(原題/訳) A predictive microsimulation model to estimate the clinical relevance of reducing alcohol consumption in alcohol dependence. アルコール依存症者でアルコール消費を減らす臨床関連を推定するマイクロシミュレーション・モデル		
執筆者 François C, Laramée P, Rahhali N, Chalem Y, Aballéa S, Millier A, Bineau S, Toumi M, Rehm J.		
掲載誌 Eur Addict Res. 2014;20(6):269-84. doi: 10.1159/000362408. Epub 2014 Sep 16.		
キーワード ナルメフェン、アルコール依存症、全アルコール消費量(TAC)、大量飲酒の日(HDD)	PMID 25228120	
要旨 背景: アルコール消費は、ヨーロッパにおける疾患と障害の最も重要な因子の1つである。臨床試験では、ナルメフェン(nalmefene)はアルコール依存症患者対プラセボの間で全アルコール消費量(TAC)と大量飲酒の日(HDD)の数を有意に減少させた。 方法: マイクロシミュレーション・モデルは、アルコール依存症患者でアルコール起因性疾患と損傷を推定して、アルコール消費を減らす臨床関連を調査するために開発された。 結果: 考慮されるすべての疾患と損傷において、入院するイベント(入院患者発症)数は、1年のHDDとTACの数と一緒に増加した。1年につき20日のHDDの減少が100,000例患者当たり941例でアルコール起因性のイベントがより少なくなることに帰着し、純アルコール(エタノール)の3,000g/年の消費の減少が100,000例の患者当たり1,325のより少ない入院イベントに帰着するとモデルは予測した。 結論: アルコール依存症患者でアルコール消費を減らすことにより潜在的に獲得するものは相当大きい。		